

1. 研究者になろうとしたきっかけ

私は、多彩な官能基と構造を持つ化学分子の極微細な違いが、異なる生命現象の原因となることに興味を抱きました。そして実際に核酸化学と分子細胞生物学を結ぶ研究を経験し、その奥深さに魅了され、研究者を志しました。

2. 助成研究の内容紹介

私たちの遺伝子はたった4種類の核酸塩基によりDNAとRNAにコードされています。私は塩基化学修飾の研究過程で、RNAの介在によるDNAの修飾を新たに発見しました。これは塩基置換の原因となり、その制御の破綻による、がんの根源＝遺伝子変異の仕組みを解明します。

3. 2の将来に繋がる結果予想・目標

新たなDNAの変異制御機構を明らかにし、その原因遺伝子と変異頻発部位の同定により、がん発症の可能性や程度を予測検査の開発が可能となります。また本解明機構の応用により、がんの原因となる遺伝子変異の修復法と新規対がん戦略の開発を目標としています。

4. 全国のRFL関係者に一言

本助成を最大限生かすべく邁進いたします。私の研究はがんの根源となる遺伝子の変異発生原因の新たな原因を明らかにするものです。この成果を生かして他分野との連携によりがん医療の進歩に貢献する所存です。